

平成 29 年 11 月 30 日
総合政策局情報政策課
交通経済統計調査室

トラック輸送情報（平成 29 年 9 月分）

1. 特別積合せ貨物

（1）本月の概況

調査対象 24 社の本月の輸送量は、5,455,939 トンで、前月と比べ総輸送量が約 176 千トン増加したため、前月比 103.3%（季節調整済み 99.5%）となり、前年同月との比較では、約 85 千トン増加したため、前年同月比 101.6%の実績であった。

なお、平均稼働日数は 23.3 日で、前月と比べ 0.6 日増加し、前年同月との比較では、0.1 日減少であった。稼働 1 日当たりの輸送量は、234,160 トンで、前月と比べ 約 2 千トン増加したため、前月比 100.7%となり、前年同月との比較では、約 5 千トン増加したため、前年同月比 102.0%の実績であった。

（図 1-1、図 1-2 参照）

（2）宅配便の概況

調査対象 14 社の本月の宅配便貨物の取り扱い個数は、約 332,762 千個で、前月と比べ 約 8,268 千個増加したため、前月比 102.5%（季節調整済み 101.6%）となり、前年同月との比較では、約 32,180 千個増加したため、前年同月比 110.7%の実績であった。

（図 2-1、図 2-2 参照）

注）平成 28 年 10 月より日本郵便（株）の「ゆうパケット」を宅配便として取り扱うことになった増加分を含む。

（3）品目別及び地域別輸送状況（表 1 参照）

調査対象 25 社（24 社及び品目別・地域別輸送状況回答 1 社）は、前月との比較で見ると、品目別トータルでは、輸送量が増加したと回答する事業者が多かった。品目ごとでは、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「繊維工業品」、「日用品」で、倉庫から出る貨物増が「機械」で、季節的需要増が「日用品」でみられた。一方、工場・生産地からの貨物減が「農水産品」でみられた。地域別では、「関東地方」、「北陸信越」、「中部地方」、「大阪」、「中国」で貨物増となっている。

前年同月との比較で見ると、品目ごとでは、工場・生産地からの貨物増が「金属製品」、「機械」、「日用品」でみられた。一方、工場・生産地からの貨物減が「農水産品」でみられた。

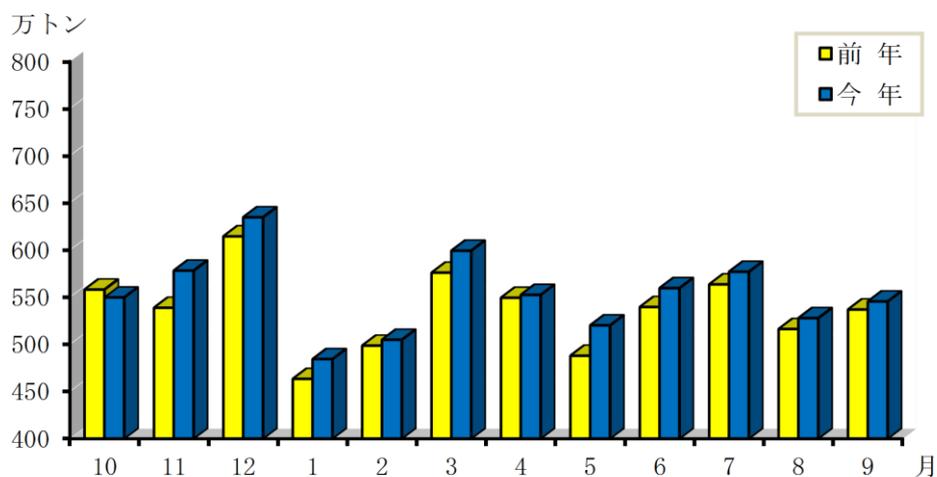
2. 一般貨物

（1）本月の輸送状況（表 2 参照）

全国の一般貨物トラック事業者（本月の回答事業者 787 社／調査対象事業者数 1,004 社）の輸送量は、前月比 105.6%、前年同月比 102.7%であった。

お問い合わせ先：総合政策局情報政策課交通経済統計調査室
電話：03-5253-8111（代表）
03-5253-8346（直通）
FAX：03-5253-1567
担当：大内（内線 28-721）、桑原（内線 28-723）

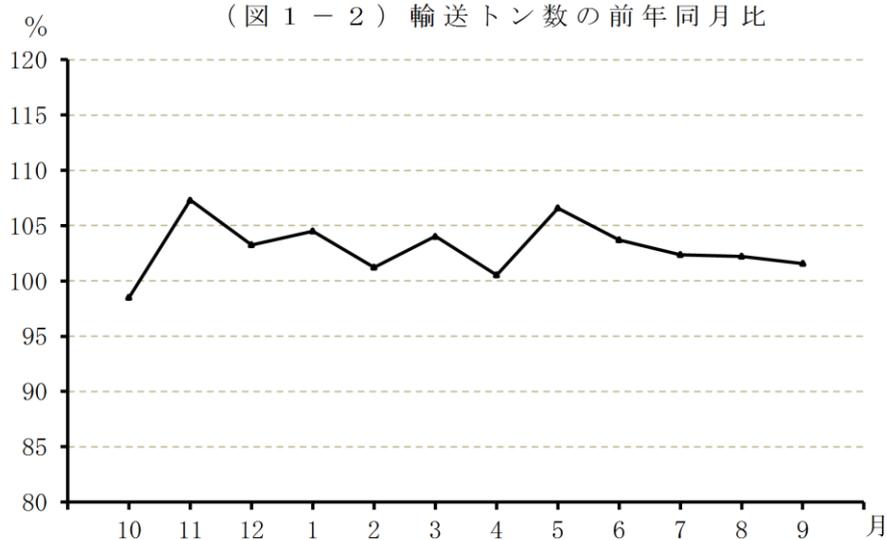
(図1-1) 輸送トン数の推移



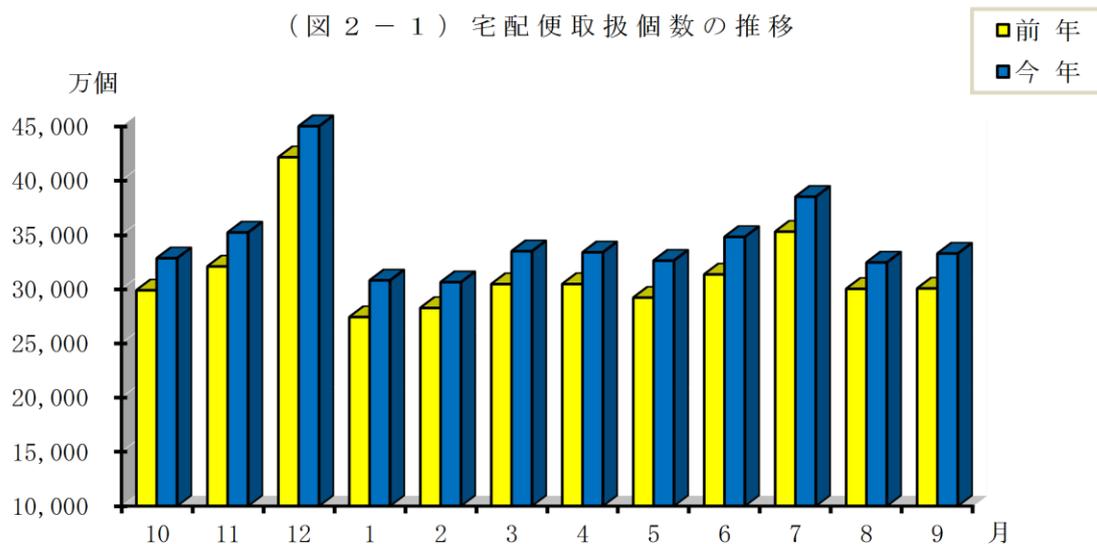
(図1-1) 24社の輸送トン数の推移 単位: 万トン

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H27年度	542.8	469.3	529.0	572.5	482.1	516.8	558.2	538.9	614.7	463.6	498.8	576.1	6,362.7
H28年度	549.6	488.1	539.8	563.7	516.4	537.1	549.9	578.3	634.9	484.5	505.0	599.4	6,546.7
H29年度	552.6	520.3	559.8	577.1	528.0	545.6							3,283.4

(図1-2) 輸送トン数の前年同月比



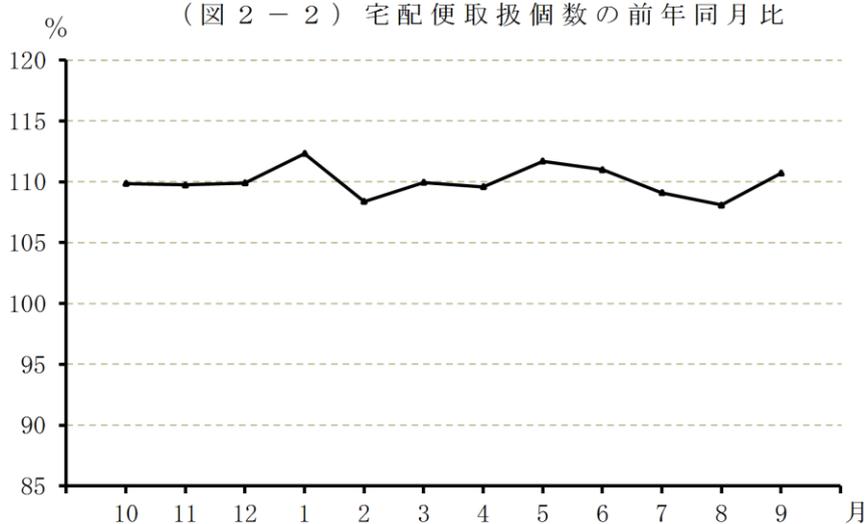
(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移



(図 2 - 1) 宅配便取扱個数の推移 単位：万個

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
H27年度	28,524.8	27,738.5	30,395.5	34,024.2	28,922.4	28,758.6	29,891.6	32,087.3	42,145.4	27,421.1	28,262.2	30,458.3	368,029.8
H28年度	30,464.6	29,206.8	31,351.6	35,290.3	30,019.7	30,058.2	32,840.4	35,214.4	46,318.9	30,798.7	30,635.2	33,490.3	395,689.3
H29年度	33,386.5	32,621.6	34,804.3	38,505.6	32,449.4	33,276.2							205,043.6

(図 2 - 2) 宅配便取扱個数の前年同月比



(表1) 品目別増減状況 (回答事業者数 25社)

品目	増減事業者数				主な増減品目 (上段が増加・下段が減少)	主な増減地域	※ 増減要因		
	著 増	変 増	ら 減	著 減					
前 月 に 比 べ て	農水産品		2	12	1	3	野菜	4	
	金属製品		7	13	1		その他の金属製品	4	
	機械	1	8	11			機械部品	愛知	4, 7
	化学工業品		5	13	3				
	繊維工業品		7	14				東京、関東、北陸信越、中部地方、大阪、中国	4
	食料工業品		4	14	2				
	日用品		9	10	3		その他の日用品	神奈川、関東、愛知、中国	4, 8
	その他	1	7	12	1	1	宅配便		
前 年 同 月 に 比 べ て	農水産品		3	12	3			4	
	金属製品		5	14	2			4	
	機械	1	5	13	1			4	
	化学工業品		3	15	3	1			
	繊維工業品		2	17	2	1			
	食料工業品		2	15	3				
	日用品		6	11	5			4	
	その他		5	14	1	2	宅配便		

(注) 「主な増減地域」については、16地域[全国、6大都市圏(東京、神奈川、愛知、大阪、兵庫、福岡)及び地方運輸局(6大都市圏を含む場合はそれらを除く府県、九州は沖縄を含む)]単位である。
なお、地方運輸局に6大都市圏を含む場合は「～地方」と表記した。

※ 増 減 要 因	1. 新規荷主獲得(荷主契約解除)	6. 倉庫へ入る貨物増(減)
	2. デパート、スーパーの貨物増(減)	7. 倉庫から出る貨物増(減)
	3. 他機関から貨物が来た(へ流れた)	8. 季節的需要増(減)
	4. 工場・生産地からの貨物増(減)	9. 景気の好況(不況)
	5. 商社・問屋からの貨物増(減)	10. その他

(表2) 地方運輸局別 前月比・前年同月比

	全 国	北 海 道	東 北	関 東	北 信 陸 越	中 部	近 畿	中 国	四 国	九 州	沖 縄
前年同月比	102.7 %	101.5 %	99.9 %	107.6 %	101.3 %	103.1 %	102.1 %	100.9 %	109.3 %	103.2 %	114.8 %
前 月 比	105.6 %	110.6 %	107.7 %	109.0 %	106.0 %	107.2 %	104.2 %	101.8 %	104.4 %	97.8 %	87.5 %

○本月の地方運輸局別管内輸送状況（各運輸局より回答のあったもの）

北海道	<p>本月の輸送については、対前月比110.6%、対前年同月比101.5%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「セメント」が、工場・生産地からの貨物増により「その他の農産品」、「水産品」が、季節的需要増により「野菜・果物」、「その他の農産品」が、また、「その他の石油製品」、「化学肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>
東北	<p>本月の輸送については、対前月比107.7%、対前年同月比99.9%であった。品目別では、「砂利・砂・石材」、「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、天候の影響及び季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
関東	<p>本月の輸送については、対前月比109.0%、対前年同月比107.6%であった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
北陸信越	<p>本月の輸送については、対前月比106.0%、対前年同月比101.3%であった。品目別では、季節的需要増により「紙・パルプ」が、また、「穀物」、「木材」、「金属製品」、「その他の窯業品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
中部	<p>本月の輸送については、対前月比107.2%、対前年同月比103.1%であった。品目別では、景気の影響による貨物増により「機械」が、また、「金属製品」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
近畿	<p>本月の輸送については、対前月比104.2%、対前年同月比102.1%であった。品目別では、「食料工業品」、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
中国	<p>本月の輸送状況については、対前月比101.8%、対前年同月比100.9%であった。品目別では、「穀物」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「木材」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降ともほぼ横ばいが予想される。</p>
四国	<p>本月の輸送については、対前月比104.4%、対前年同月比109.3%であった。品目別では、建設関連の需要増により「砂利・砂・石材」、「金属製品」、「機械」、「廃棄物」が、工場・生産地からの貨物増により「工業用非金属鉱物」、「鉄鋼」、「金属製品」、「機械」が、商社・問屋からの貨物増により「日用品」が、季節的需要増により「野菜・果物」が、また、「セメント」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、季節的需要減により「食料工業品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月はほぼ横ばい、以降は増加傾向が予想される。</p>
九州	<p>本月の輸送については、対前月比97.8%、対前年同月比103.2%であった。品目別では、「木材」、「鉄鋼」、「金属製品」、「その他の窯業品」、「日用品」、「その他の製造工業品」、「動植物性飼・肥料」の輸送量が増加したと回答する事業者があった。一方、「その他の石油製品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも減少傾向が予想される。</p>
沖縄	<p>本月の輸送については、対前月比87.5%、対前年同月比114.8%であった。品目別では、「日用品」の輸送量が減少したと回答する事業者があった。今後の輸送見通しについては、次月及び以降とも増加傾向が予想される。</p>

運輸局		品目	北	東	関	北	中	近	中	四	九	沖	全
			海	北	東	陸	部	畿	国	国	州	縄	国
			道			越							計
18.	揮 発 油	増								1			1
		減				1			1	1			3
19.	そ の 他 の 石 油 製 品	増	2			1	1		2				6
		減				1			1	1	4		7
20.	コ ー ク ス ・ そ の 他 の 石 炭 製 品	増											
		減											
21.	化 学 薬 品	増	1			1	1						3
		減								1	1		2
22.	化 学 肥 料	増	2										2
		減				1					1		2
23.	そ の 他 の 化 学 工 業 品	増											
		減						1					1
24.	紙 ・ パ ル プ	増		1		3		1			2		7
		減		1					1	1	2	1	6
25.	織 維 工 業 品	増				1	1						2
		減								1			1
26.	食 料 工 業 品	増		1	1	1		1	2	1	3		10
		減	2	6		3		4	2	3	3	1	24
27.	日 用 品	増		2		2	1			3	4		12
		減		1		1		2	1		1	2	8
28.	そ の 他 の 製 造 工 業 品	増					1				2		3
		減					1						1
29.	金 属 く ず	増					1				1	1	3
		減											
30.	そ の 他 の く ず も の	増											
		減		1									1
31.	動 植 物 性 飼 ・ 肥 料	増	3							2	3	1	9
		減	3	1		1					1		6
32.	廃 棄 物	増	2	2					1	2	2		9
		減	1	1					1		1		4
33.	輸 送 用 容 器	増		1			1				1		3
		減											
34.	取 り 合 せ 品	増		1	1						1		3
		減		1									1
35.	そ の 他	増	1	5		1	1	5	2		13		28
		減	1		1	1			2	1	10		16